第３回東浦町総合計画審議会【第１部会】　会議録

<table>
<tr><td>会　議　名</td><td colspan="2">第３回東浦町総合計画審議会　【第１部会】</td></tr>
<tr><td>開 催 日 時</td><td colspan="2">平成 30 年６月 29 日（水）第３回審議会【全体会】終了後</td></tr>
<tr><td>開 催 場 所</td><td colspan="2">勤労福祉会館　会議室１</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出　席　者</td><td>委員</td><td>アドバイザー
千頭　聡、水尾　衣里
部会長
成田　盛雄
委員
山下　享司、久米　弘、鈴木　鑑一、竹田　正巳、成田　賢治、間瀬　宗則、水野　博隆、祖山　薫、野村　雅廣</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td>企画政策部長、生活経済部長、建設部長、建設部技監、企画政策課主幹、企画政策課課長補佐兼企画政策係長、企画政策課主査、第６次東浦町総合計画策定支援業務受託業者</td></tr>
<tr><td>議　　題
（公開又は非公開の別）</td><td colspan="2">１　議事
　第４章　基本計画（部門別計画）について
２　その他</td></tr>
<tr><td>非公開の理由
（会議を非公開とした場合）</td><td colspan="2">―</td></tr>
<tr><td>傍聴者の数</td><td colspan="2">３名</td></tr>
<tr><td>審 議 内 容
（概　要）</td><td colspan="2">議題の審議内容は、別紙のとおり</td></tr>
<tr><td>備　　考</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

【議事要約】

開会

事務局	（開会、資料の確認）

１.議事

第４章　基本計画（部門別計画）について

事務局	「４.生活産業を支える基盤づくり」についてご意見ありますか。
委員	土地利用計画が根本なので、部門別計画に入る前に土地利用計画について審議したほうがよいのではないか。
委員	住民意識調査票の評価で「住みやすいまち」と「住みにくいまち」が同じくらいの項目があったと認識している。 調査の回答者の考えを憶測すると、コンパクトシティに向けての車社会の中で、外出できないお年寄りと、車を使いこなす若い世帯の評価が対立しているのではないかと思う。車社会の現在において、町内の丘陵地で対向車がすれ違える道路が少ないと思う。 この問題の解消に向けたセットバックのための後退用地買収制度は良いが、加えて、空き家、空き地対策につなげてはどうか。住宅地の安全と有効活用につながると思う。
委員	基本計画のP12の２行目に「鉄道駅やバス停周辺を中心に生活に必要な施設や店舗などのまちの機能を集約し～」とある。前回、土地利用構想図で地域によって状況が異なりばらつきがあると発言した。図を見ると、鉄道駅というとＪＲ各駅が示されその周辺は商業地域となっている。一方で、ほとんど町外であるが西側にも名鉄線が走っている。そして八幡新田駅、巽ヶ丘駅そのものも町外にある。基本構想では鉄道駅中心に必要な施設をとなっており、このままでは東浦町の八幡新田駅、巽ヶ丘駅周辺が取り残されてしまう恐れがある。他のまちではあるけれども、何らかの形で記述するべきではないか。
部会長	八幡新田駅、巽ヶ丘駅周辺緒開発を明記したいという意図か。
委員	はい。巽ヶ丘駅の直ぐ近くに東ヶ丘団地があり、人の動きが多くある。しかし、基本構想では施設の配置が十分に考慮されていない。こちらにも賑わいを生む施設の配置が必要だと思う。
事務局	コンパクトなまちづくりは、市街地をコンパクトにするだけではなく、駅に生活利便施設を誘導する土地利用が大切だと思う。おっしゃるとおり。巽ヶ丘駅周辺の賑わいも必要だと思うが、如何せん町域外であるため、東浦町側の部分だけでも工夫は検討させていただく。

委員	ありがとうございます。
委員	今お話されていた八幡新田駅、巽ヶ丘駅周辺に関して、第５次の土地利用構想図と比較すると商業系の色が小さくなっている。これはどのような考えからか。
事務局	第５次都市計画マスタープランを踏まえて考えていた。今は都市計画道路の知多刈谷線が鉄道の上を通ることが都市計画決定されているが、前回は道路が鉄道の下を通る構想があった。このため知多刈谷線沿いが商業系として塗られていたが、現在は構想が変わったため、今回の土地利用構想図のようになっている。
委員	見直しの視点がよく分からない。前回との変更点を明確な根拠を明記して示す必要があると思う。 別の件だが、西三河知多アクセス道路が追記されているが、これは名古屋三河道路のことか。
事務局	名古屋三河道路とは別のものである。安城、刈谷、東浦、知多を結ぶアクセス道路建設の協議会をつくっている。ルートは確定していないが構想ということで明記している。
委員	名古屋三河道路に合わせて完成イメージをもたれているか。
事務局	将来的に名古屋三河道路に代わる存在となる可能性はあるが、名古屋三河道路とは異なる。
委員	名古屋三河道路が進まない現状に対して、近隣市町と連携したアクセス道路を考えていると理解した。ありがとうございます。
委員	表現として適正な表現をしてほしい。例えば、土地利用の現況のなかで自然環境学習の森は住民の憩いの場では決してない。また、東浦町を歩いて暮らせるコンパクトなまちにとあるが、鉄道周辺のコンパクト化とどう繋がるのか不明瞭である。歩いて暮らせるイメージがわいてこない。 コンパクトなまちづくりという計画書があるなかで、巽ヶ丘駅は対象とされていない。幹線道路沿いに商業施設等の形成を図っていくということだと思う。既存の東浦国道沿線の施設等をどう維持していくのかが最大の問題だと思う。駅前に商業施設を集約するのが本当によいのかよくわからない。東浦町に関しては、国道、県道沿いに既に集約されているのではないか。今都市化率は何％なのか。まだ空き地が多くあり、農地として活用されている。無理に住宅の区画整理をする必要があるのか。この土地利用構想図には疑問を持っている。
事務局	森岡緒川の地区は市街化区域が連続していない。 コンパクトな 800m徒歩圏内と土地利用の連続性を意識して森岡緒

	川地域は住宅系にしている。 　国道を中心に商業が集約している面もあるが、駅に多くの人が集まりまるし、高齢化を迎えるなかで中心となるのは駅であると考えている。駅を中心とした街づくり、土地利用が必要であると考えている。
委員	宅地は余っているのではないか。これ以上あまるものを計画してどうするのか。森岡地区に関しては、優良な宅地が農地として活用されている。これを整備した方がよいのではないか。20 年経っても変わっていない。これを放置して、新たに市街化区域を広げてどうするのか。インフラの維持管理費も増大する。土地利用計画に合理性がない。
事務局	町のほうで住宅が建たない側面は否めない。森岡のほうでも少しではあるが民間による宅地化が進んでいる。市街化区域をつくってすぐに埋まるわけではないが、名古屋圏内なので住宅需要があるのではないかと思う。その中で、少しでも住みよくするために緒川・森岡地区の連続性の向上はよいのかなと思う。このような考えから構想図を描いている。
委員	東浦駅の国道沿線の生活利便施設を、どう維持していくのかが論点である。駅への集約によって、国道沿線は捨てるのか。 　また、今回の第６次計画では人口が伸びないという前提で議論している。その中で宅地開発するのはなぜか。なぜ優良農地をつぶすのか。構想と離れた土地利用構想図を作る意味がないのではないか。
委員	車に乗れないお年寄りにとっては、コンパクトシティどころの騒ぎではない。空き家対策や狭い道路の改善も含めて、安全で安心なまちとなるように進めていくべき。 　これだけの利用計画を立てても、計画倒れが垣間見える。
部会長	商工会の会員数も、県下で一番多く増えた。これを紐解くと、町内の会員が増えているのではなく、町外からの支店が増えている。ただ、今後の会員数の減少は否めないのが現状である。委員のご意見もごもっともである。
事務局	東浦町はセットバックで買い上げし、道路を広げる制度を持っている。場所によっては、空き家を利用して道路を広げていくような形もとれると良いと思う。 　新たな住宅系の区画整理については事務局と再度検討を行い、適切な土地利用構想図を出せるとよいと思う。
委員	森岡の工業団地の地元は、来てくれる企業があるなら大賛成だという。新規就農はぶどう農家１件しかなく、工場用地として使えるのであれば望ましいと思う。農地を相続する人が要らないと言っている。

	何かの形で活用する方法を探る必要がある。これが実態だと思う。
委員	担い手不足の実態はそうかもしれない。しかし、後継者がいないならつぶすというのは乱暴すぎると思う。石浜工業団地は生産性のあった農地を生産性のない工業用地にしてしまっている。 駅周辺における、歩いて暮らせるまちづくりは理解できない表現である。理にかなった土地利用計画をお願いしたい。
委員	国の施策に農業が翻弄されている実態がある。戦後、農林省の予算が全体の１割であった。その中の９割は稲作にあてられていた。30 年代の後半にはお米があまり減反政策に変わった。そのため、食料自給率が４割を切った。日本は１日３食の内２食もまかなえていない。食糧が不足する事態が起きる可能性がある。農業系の土地利用においては、少しでもいいので耕作放棄地を解消してほしいと思う。国は耕作放棄地の基準を変えた。これにより、荒地が半分に減った。農業系の復活は大変なことである。
部会長	「生活・産業を支える基盤づくり」について審議を進める。
委員	目標値について、どのように設定されたのか伺いたい。アンケートのサンプルは何票なのかも伺いたい。 もう一つは、コンパクトなまちづくりについてである。行政としては管理しやすく理想的だが、地価が上がってくると思う。お金がある人だけが集まってしまう。町として地価上昇に対する住宅支援の補助をするなど、コンパクトなまちづくりと合わせて支援をしていかないといけないと思う。
事務局	成果目標に関しては、ますルールとして住民意識調査は指標にしないことにした。これは、毎年の変化が比較できないことや、施策が分からないまま回答している事例が多々あることからである。第５次総合計画の中でも中間見直しを行ったが、正確な数値がでないものは改めて成果指標を設定した。 アンケートの調査数については 4,000 名を対象に行っており、回答率は 40%を超えている。これは他の自治体に比べて高いものである。調査結果が統計的に問題のあるものだとは思っていない。
委員	財政力指数について、東浦町は悪くない値だと思う。もちろん、１に足りない分は国からの交付金で賄われていることが前提である。フリーハンドの予算が組めるのかがどうかは、行政運営において大切な側面だと思う。総合計画が萎縮してしまうのではという意見があるが、人口減少時代なので守りの総合計画もありだとは思う。
委員	P114 に公共施設マネジメントとあるが、P84、76、52、36、30、28、

	24 など各施策にハード面に関することが散らばっている。これらは１つにまとめてはどうか。 　森岡地区と比較して、緒川地区、寿地区では住宅が増えており空き家がない。地区ごとには違いがあるため、地域別の施策を考えたほうがよいのではないかと思う。
委員	東浦町は利便性を PR していくべきだと思う。 　農業でも直売、出荷だけで観光には絡めていない。名鉄との連携など、工夫をしていかなければならないと思う。
事務局	公共施設を統廃合するかには、様々な選択肢がある。各部門の中で、老朽化する公共施設は問題として捉えている。建て直し等の計画を統括するところが公共施設マネジメントとなる。
委員	緒川エリアでは活性化の兆しがあるが、町全体を包括的に考えるとどう扱っていくのかが問題となる。
委員	P112 の連携協力で巽ヶ丘駅の話も上げたが、そうなれば近隣市町との連携が必要となる。現状と課題の中に、土地利用計画について近隣市町と協議する旨を入れることが必要だと思う。協議会の設置など明確に記載してほしい。
委員	ここに書かれている内容は役所が文言を並べたものであり、東浦町を理解している人々との認識にズレが生じている。土地利用構想図はもっと注意深く書くべき。外から見ると東浦町には４つも駅があり恵まれていると言える。当面はパークアンドライドでも問題ないのではないかと思う。これを考慮すれば、違ったコンパクトシティのあり方が見えてくると思う。東浦町を前提に考えなければならない。 　商業系や住宅の中に農地が入っているハイブリッドな土地利用構造は東浦町の強みである。副業で農業をということも考えられる。新たなライフスタイルの提案が可能かもしれない。自給率は金額ベースでは７割以上あるのでブランド化を行えば高くても売れる。強い農業をつくっていくべき。 　また、経済的に豊かな内に道路基盤整備を行うべきだと思う。これによって工業誘致が活性化する可能性がある。工業用地として売れる可能性が高い市町村のひとつである。若い 30～40 代の世代が住み続けていただけるようなまちを目指していく必要がある。東浦町の特徴を反映していく必要がある。
事務局	７月 13 日（金）までに事務局へ意見をいただきたい。

閉会

事務局	（閉会）